

27 年度事業概況の報告

国内の景気は、大手を中心に緩やかな伸展がうたわれてきましたが、後半から中国経済の影響が言々され、いささか心配されるむきもあります。地域内の景況は依然として厳しい状況が続き小規模事業者にとっては我慢の1年でありました。

このような中、今年度は、まず、販管費の中でも大きな割合を占める人件費の削減に取り組みました。少人数でも対応できるように各部署の連携を強めた協力体制を整え、正社員の退職に伴う補充に関しても短時間パートに止めることにより、月約 100 万円弱の減少となり、年間では約 1,170 万円まで削減する事ができ、一定の成果を見ることができました。

しかし、今年度は当初より 7 月に浴室天井工事が予定されており、12 日間の臨時休館を余儀なくされ、前年単月比較で入館者数約 2,300 人、売上で約 400 万円の減少と厳しい状況となりました。そこに、少しでも挽回を目指そうとした矢先の 9 月に、今度は源泉ポンプが故障するアクシデントが起こり 2 日間の臨時休館に約 300 万円の経費負担が申し掛かることとなり、その後も劣化等での故障が相次いで、日々修繕に追われてしまいました。結果、資産計上のポンプも含めると修繕関連で 500 万円超となり、前年の約 2.7 倍まで膨れ上がってしまいました。

また、入館者及び売上増を目指す取り組みについては、好評のポイントサービスデーを継続し、1 枚当り入館料 600 円の特別回数券を再び販売を始め、更に毎週火曜日をレディースデー、毎週木曜日をメンズデーとして食事サービスを設けるなどの販売促進に力を入れました。

しかし、入館者数は前年より 1 日当りの平均人数は増加したものの、稼働日の減少も響き、前年度より約 1,300 人の減少で 129,094 人となり過去最低を記録しました。

その結果、経営状況では、客単価の下落も大きく響くこととなり売上実績が 2 億を割る 1 億 9 千万円まで落ち込んだ影響が大きく、今期も力及ばず当期損失を計上し、当期純損失額が 2,339 万円まで膨らむ不本意な結果となってしまいました。

28 年度は新潟市から 3 年間の指定管理を受けた中間で、継続を目指す上で結果が求められる勝負の年となります。全てがお客様のために努力することで従業員全員が一丸となり、赤字額の減少、黒字転換にむけ努力すると共に市ご当局に現況をご理解いただき助力をお願いしているところです。新潟市ご当局をはじめ株主各位並びに関係各位の一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上